

サービス提供プロセスの管理に関する演習 ～事前ガイダンス～

【演習1】個別支援計画の作成

**【演習2】個別支援計画の実施状況の把握
(モニタリング)および記録方法**

基礎研修・実践研修・更新研修のねらい

更新研修: **自己検証**
施策の最新の動向、自己検証、
スーパーバイズ

5年毎
サービス(児童発達
支援)管理責任者とし
て継続

実践研修: **質の向上**
支援会議の運営、サービス(支援)提供職
員への助言・指導、個別支援計画の質の向
上

基礎研修 修了後2年
サービス(児童発達
支援)管理責任者とし
て配置

基礎研修: **プロセス**
アセスメント、個別支援計画の作成、
相談支援専門員との連携、多職種連携

3年
原案作成が可能

基礎研修カリキュラム

科目	内容・目的	時間数
I, サービス管理責任者・児童発達管理責任者の基本姿勢とサービス提供のプロセスに関する講義（7. 5時間）		
サービス提供の基本的な考え方（講義）	サービス提供の基本的な考え方として、利用者主体の視点、自立支援の視点、エンパワメントの視点、ICFの視点、現実的な支援計画に基づくサービス提供、連携の必要性等について講義により理解する。	60分
サービス提供のプロセス（講義）	サービス提供のプロセスに関する講義により、PDCAサイクルによるサービス内容を確認することの重要性とその方法、個別支援計画の意義を理解する。	90分
サービス等利用計画等と個別支援計画の関係（講義）	サービス等利用計画等と個別支援計画の関係性について講義を行い、サービス等利用計画等における総合的な援助方針を導き出すプロセスを理解し、個別支援計画の出発点がサービス等利用計画等の総合的な援助方針であることを認識する。また、サービス等利用計画等が生活全体の範囲に及び、個別支援計画が生活全体をイメージしながらも事業所内サービスに重点を置いた計画であることを理解する。	90分
サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント（講義）	サービス提供における利用者を中心としたアセスメントの考え方やその手法について講義により理解する。また、障害種別や障害福祉サービスなど各分野における異なる視点について理解する。	150分
個別支援計画作成のポイントと作成手順（講義）	個別支援計画の作成におけるポイントと手順についての事例等を活用した講義を行い、作成の視点がリスクマネジメントのみに陥らないように、エンパワメントの視点やストレングスの活用について理解するとともに、作成の手順を習得する。	60分
II, サービス提供プロセスの管理に関する演習（7. 5時間）		
個別支援計画の作成（演習）	モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。	270分
個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）および記録方法（演習）	モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭にしながら、視点・目的・手法等を理解する。	180分
合計時間		15時間

基礎研修の目的の キーワード

基本的な理念や倫理、利用者主体、エンパワメント、ICF

支援のプロセス、PDCAサイクル

相談支援専門員との連動、援助方針を導き出すプロセス、利用者の生活全体をイメージ

障害の理解、個別アセスメントに特化しないこと、地域の中での関係性

ストレングス、サービス等利用計画等と個別支援計画の連携、ニーズの把握、課題の整理

プロセスの理解、サービス(支援)担当者、(個別)支援会議、モニタリング、傾聴

モニタリング、サービス等利用計画等との連動、多職種連携、情報の整理

演習の内容と目的

Ⅱ. サービス提供プロセスの管理に関する演習(7.5時間)

○演習ガイダンス	事前に演習の内容や目的を理解し、事例等の概要を読み込むことで、スムーズな演習が実施できるようにする。	30分
1. 個別支援計画の作成(演習)	モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。	240分
2. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)および記録方法(演習)	モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。	180分

7つのセクション

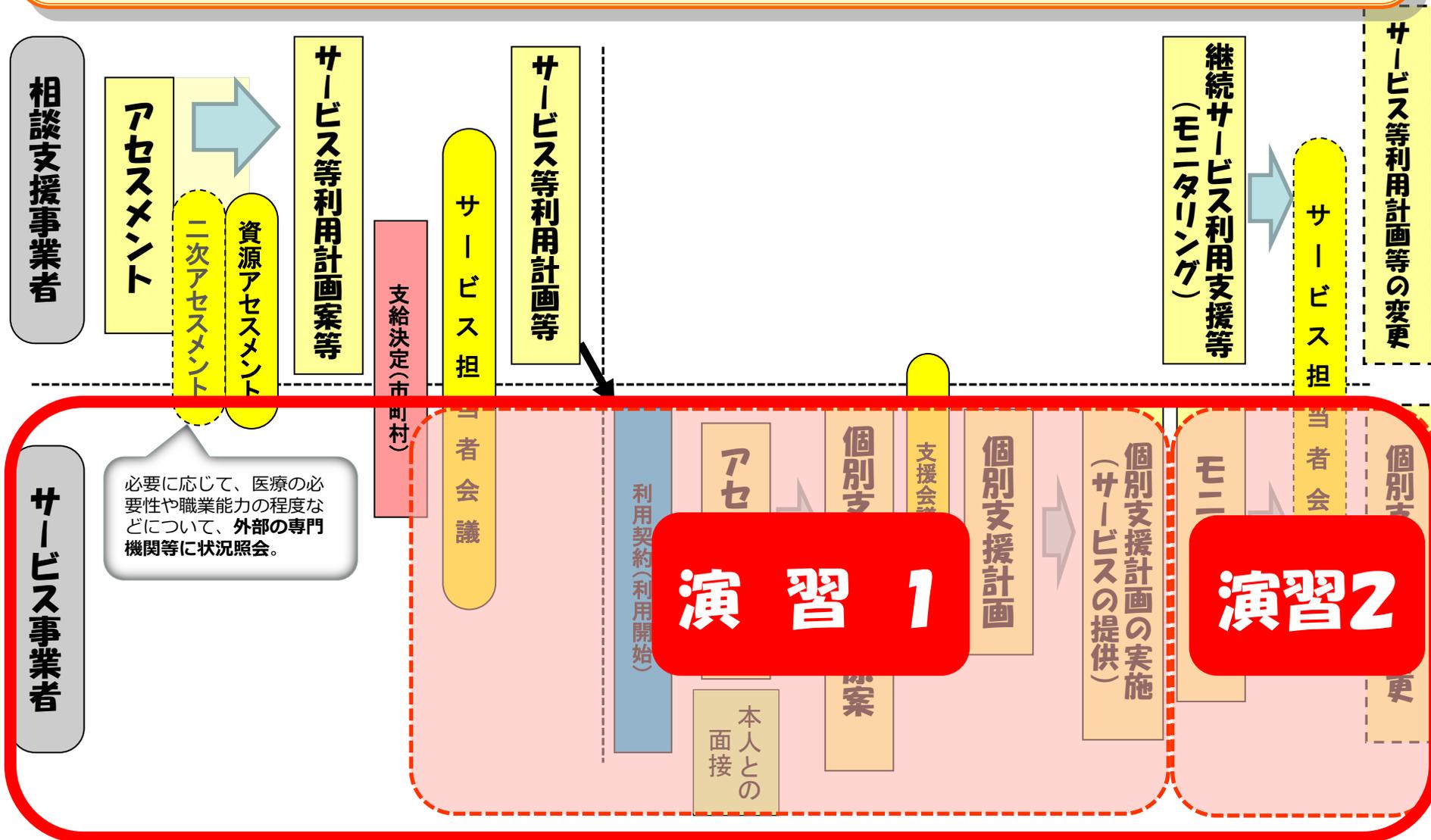
1. 個別支援計画の作成(演習) 270分

- ① ガイダンス
- ② サービス担当者会議への参加準備 ~利用者概要の把握~
- ③ サービス担当者会議体験 ~アセスメントの深化と生活全体のニーズ把握~
- ④ 個別支援計画作成に当たり本人との面接 ~事業所におけるニーズ把握~
- ⑤ 個別支援計画の作成・発表

2. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)及び記録方法 180分

- ⑥ サービス担当者会議のロールプレイ(モニタ) ~追加情報の提示~
- ⑦ 個別支援計画修正案の作成

指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と
障害福祉サービス事業者の関係

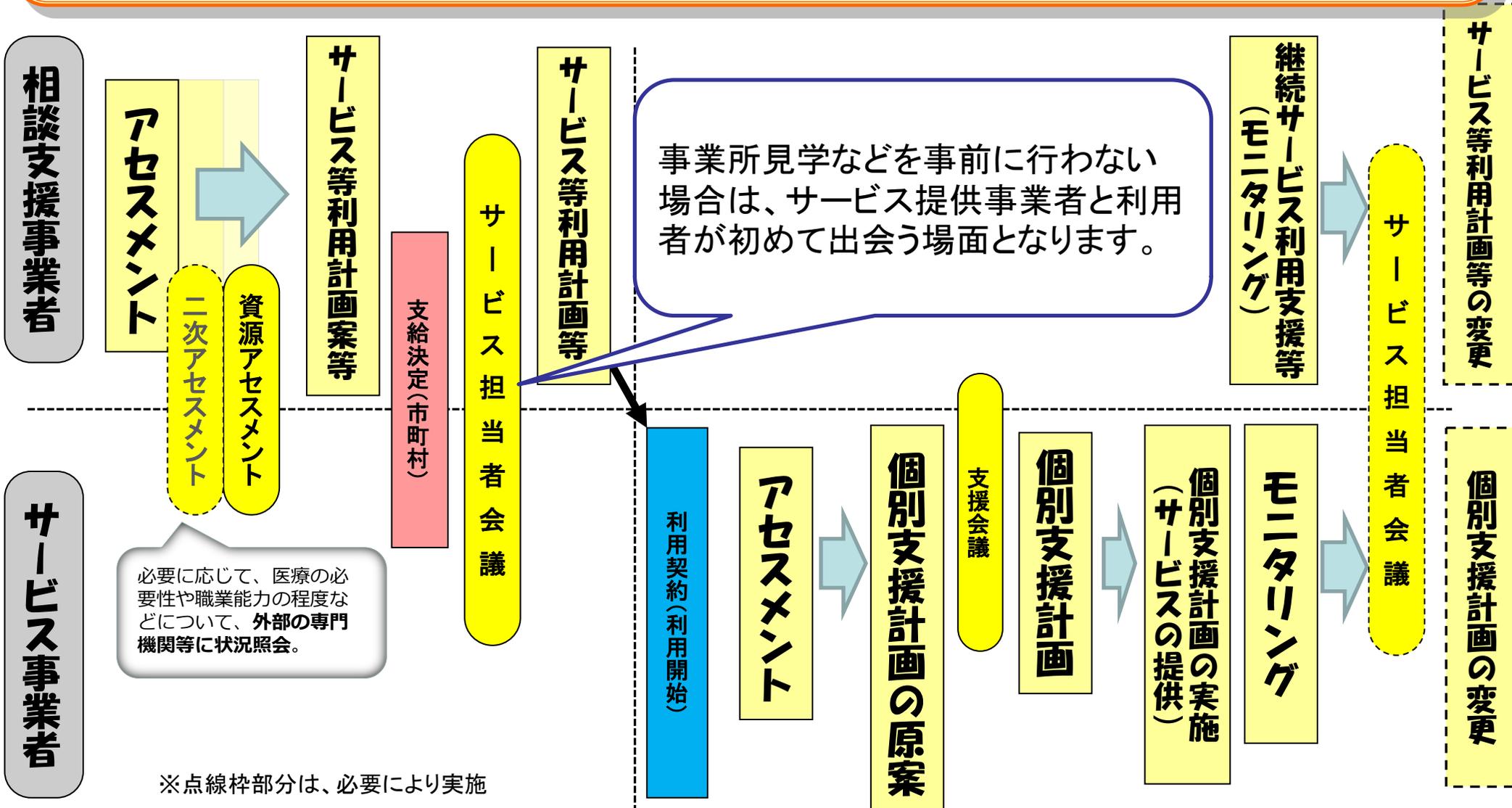


演習事例の概要

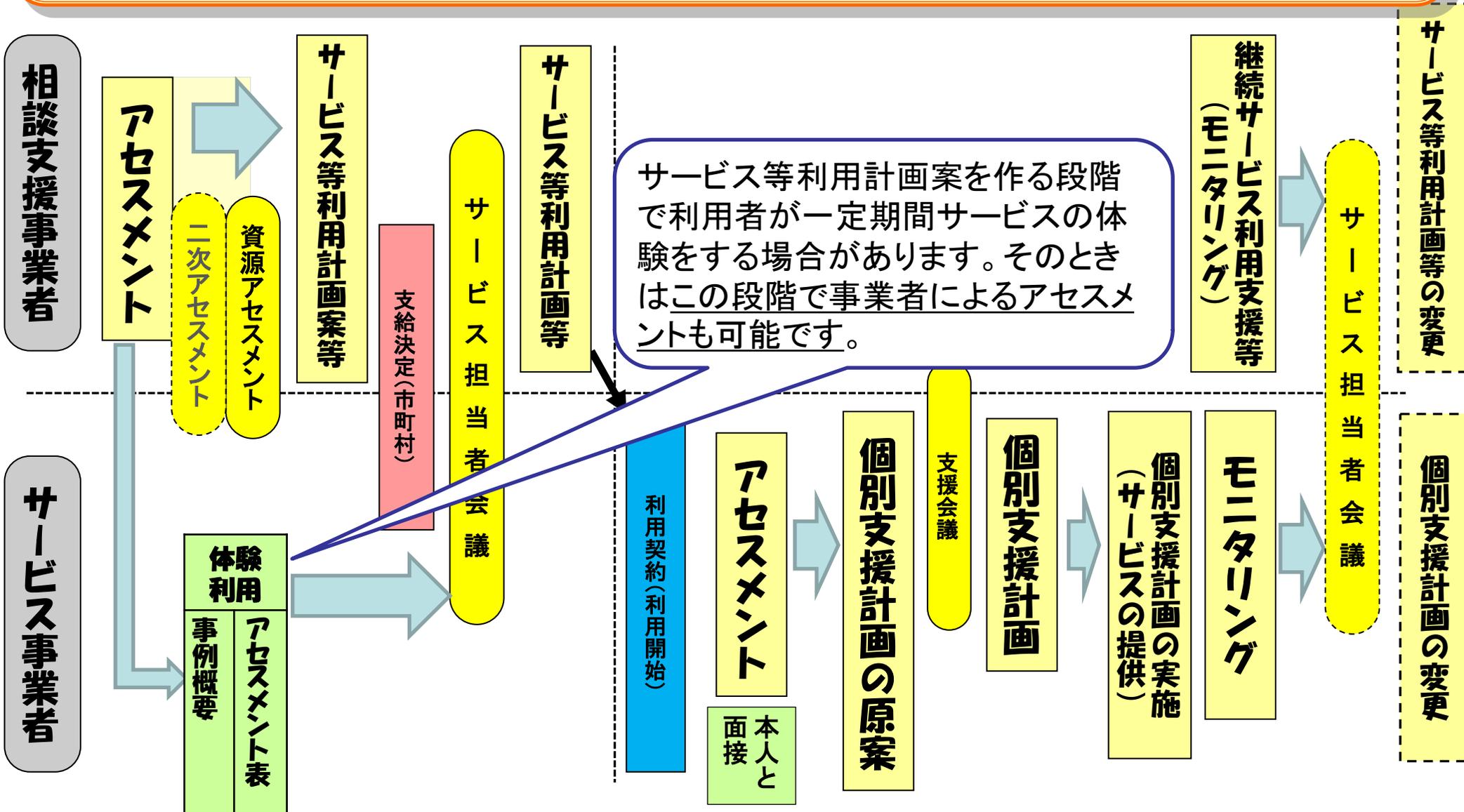
【この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です】

- 水道橋久さんは、A市で2人兄弟の長男として出生。発語や歩行し始めるのが少し遅かった。小学校の1、2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立てて教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあり、小学校3年生からは情緒支援の特別学級に移った。小学校6年生の時に軽度の知的障害と判定を受けた。
- 中学は特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し顧問に根気よく教えてもらい部活動では楽しく過ごしていた。昆虫や木工にも興味をもっていた。久さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。その後、久さんは母親と1年に1～2回は会っている。
- 久さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司が、わかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、上司が変わってから「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などを訴え、退職して自宅でのひきこもり状態の生活になった。
- 久さんが退職して半年後、父親が通勤途中で交通事故にあい大けがをして、仕事ができなくなり生活保護となった。父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があった。久さんも「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。
- 久さんは、相談支援事業所にサービス等利用計画案の作成を依頼し、相談支援事業所がアセスメントを実施、計画案を作成し久さんに提示し、了承を得たので計画案をA市福祉課に提出しました。それを受けてA市福祉課は共同生活援助と就労継続支援B型の支給決定を行いました。相談支援事業所の相談支援専門員は、「サービス担当者会議」を行います。
- みなさんは、サービス管理責任者として、サービス担当者会議に出席します。出席するにあたり、水道橋久さんの「事例概要」及び「アセスメント表」をもとに、奇数番号グループは「共同生活援助」を、偶数番号グループは「就労継続支援B型」を利用することを前提として「事前準備」を行ってください。

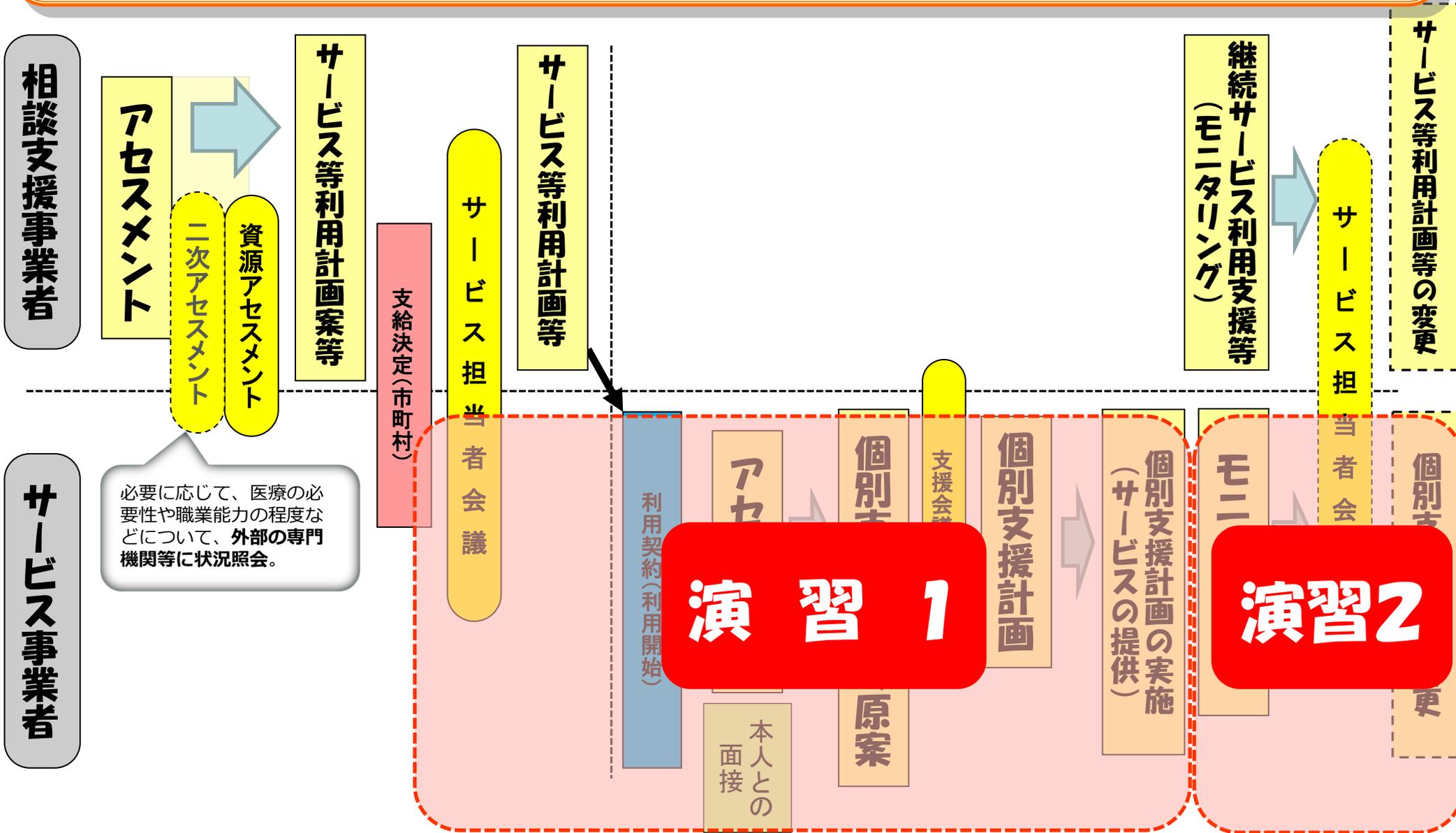
指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



個別支援計画の作成

個別支援会議の実施

- ・個別面接等により事業所独自のアセスメントを行う。
- ・サービス等利用計画等を参考にする。

個別支援計画の原案を作成する

- ・利用申込者心身の状況、他の障害福祉サービス等の利用状況を把握する。
- ・サービス担当者会議に参加し、専門的な見地から意見を述べる。

サービス担当者会議

各事業所の想定

- 演習1及び2では、共同生活援助と就労継続支援B型のいずれかの事業者のサービス管理責任者の役割を体験します。
- グループ番号が奇数番号と偶数番号でそれぞれの事業者に分かれて演習を進めます。
- 奇数番号(1・3・5・……)のグループは
→「共同生活援助」事業者
- 偶数番号(2・4・6・……)のグループは
→「就労継続支援B型」事業者

グループホームピアハウスの概要

- 共同生活援助事業所(介護サービス包括型)
 - * 夜間は連絡体制のみ
- 入居定員4名 現在 男性4名利用中
- 建物 戸建住宅 5LDK
- 居室4室(8畳) 世話人室 リビング(共有スペース)、お風呂、トイレ、洗面所、キッチン共有
- 立地環境 住宅地の一角にあり、すぐ隣には公園がある。歩いて5分の所にコンビニ、スーパーなどがあり、駅までも徒歩15分程度。
- サービス管理責任者 — 川崎 まさお
 - * 普段は別にある事務所にいて、他に2ヶ所のホームも見ている。
- 世話人 — 豊田 のぞみ 月～金 6:00～9:00、15:00～20:00
(1日 計8h勤務)
- 生活支援員 — 名古屋 ひかり 土・日 8:30～17:30(8h勤務)

就労継続支援B型事業所「スマイル」の概要

事業所所在地の環境	<p>人口は約10万人、人口の約30%は65歳以上の高齢者であり、人口の5%にあたる約5千人が障害者手帳を保持している。</p> <p>県庁までは自動車です1時間、都市圏までは電車で1時間程度かかる。</p> <p>産業は、新都市開発による工場誘致により第二次産業が増加傾向にある。</p> <p>公共交通機関は地元の鉄道、バスがあるが、自動車が移動手段の中心である。</p>	
地域の社会資源の状況	<p>障害福祉サービス事業は、市内の社会福祉法人やNPO法人により、就労継続支援A型・B型、生活介護、生活訓練、就労移行支援の各事業が整備されている。</p> <p>相談窓口として、障がい者相談支援センター1ヶ所、特定相談事業所8ヶ所があり、障害者就業・生活支援センターは隣市にある。</p>	
地域の地場産業	<p>自動車産業が盛んな地域であり、部品の製造をはじめとした下請け企業が多い。以前は、家内工業の工場がたくさんあり、職親制度等も利用して障害のある人の雇用がされていたが、最近ほとんどが閉鎖・倒産している会社が増えている。</p>	
事業所の概況	<p>多機能型事業所 就労移行支援事業 定員12名 就労継続支援B型事業 定員20名 現在の利用者は、身体・知的・精神など多様な障害種別の人が利用している。 久さんが利用を予定しているグループホームからはバスで10分（徒歩ならば45分かかる）の距離である。</p>	
職員構成	<p>管理者1名（60代女性） サービス管理責任者1名（本田一郎：40代男性） 職業指導員3名（40代女性、60代男性、20代女性） 生活支援員2名（30代女性、30代男性） 就労支援員1名（30代女性）</p>	
日課	<p>*平日 9:30~16:00 *土日祝日は休所</p>	
主な作業内容	作 業 内 容	工賃の状況
	カフェ（接客、皿洗い、調理補助等）	時間 200円~400円
	組み立て作業	時間 200円~400円
	施設外就労活動（近所の運送会社での倉庫内作業・袋詰め作業）	時間 400円~580円

【事例情報】

01 事例の概要

01 事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です。

水道橋 久 さん

記入者 支援センターひまわり 相談支援専門員 六本木はやと さん

事例タイトル	父親と弟との暮らしが困難になり、グループホームと就Bを利用しながら地域で生活することを希望している事例
相談経過の要約	<p>久さんは、A市で2人兄弟の長男として出生。初語や歩行が少し遅かったが、3歳児健診などでは特に保健師の指摘事項は無かった。小学校の1～2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着き無く、席を立てて教室内を歩き回わり、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあった。</p> <p>小学校3年生からは、自閉症・情緒支援の特別支援学級に移った。小学校6年生の秋に、他の生徒との学力の差、学習環境に馴染めないこと等から、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。その際、児童相談所で療育の判定を受け、軽度の知的障害であった。</p> <p>中学はA市内にある特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。太鼓部の顧問は、久さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。また昆虫も大好きで、図鑑を見たりしている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。同じクラスに昆虫好きの友達があった。父親が大工だったこともあり、久さんも木工に興味をもって犬小屋をつくった。</p> <p>久さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。母親が統合失調症で自分のことでせいっぱいで家族の面倒をみられなくなり家を飛び出してしまった。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。その後、久さんは母親と1年に1～2回は会っている。離婚後、父親は家のことを何とかこなしていたが、徐々に家の中が乱雑になり、久さんも学校を休みがちになった。</p> <p>久さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて久さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1年後に上司が変わり、その上司が他の職員の対応に追われて、久さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後に、久さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。それ以降「誰とも会いたくない」と話して、求職活動もなかなかできず自宅でのひきこもり状態の生活になっていた。</p> <p>久さんが退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中に交通事故にあい大けがをした。父親も右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなった。最初のころは貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となった。それまで父親が家事などを行っていたので、さらに乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。</p> <p>父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、久さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりた</p>

	い」と希望した。久さんは、相談支援センターひまわりで相談を始めて、見学等も行う中「相談しながらやっていきたい」「今は朝も起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した
年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	<p>年齢22歳 性別(男性) A市で生まれ。</p> <p>家族構成 父：もともとは大工。以前はとても面倒見が良かった。無職 交通事故で右半身に麻痺が残る。何とか自分のことはこなせるが、子どもたちの世話をすることができなくなっていた。久さんの施設入所を考えていたが、久さんの「自立したい」という気持ちを聞いて、久さんには福祉サービスを利用して自立してほしいと思っている。 母：A市から少し離れたB市に居住。生活保護を受給して一人暮らし。統合失調症の治療中で、久さんとの同居は難しい。年に1～2回久さんと会っている。 弟：5歳下。高校3年生。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。</p>
手帳・区分	療育手帳 障害程度は軽度 障害支援区分 3
生活歴及び病歴	<p>【生活歴】 A市で生まれ育つ。初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。小学校3年生から情緒支援学級に通学、中高は特別支援学校に通学。好きなこと(木工や昆虫図鑑を見ること)は集中して取り組むことができるが、興味が無いと席に座ることができない。また中学・高校は太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。友達も数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかという受け身の性格であり、話かけられるのを待つ方だった。困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする。 仕事はしたいと思っていたが、またうまくいかないのでないかと思って、求職活動はできずにいた。</p> <p>【病歴】 中学校進学時に、児童相談所で判定を受け療育手帳を取得。仕事を辞めた後、自宅へ引きこもった生活をしてきた。生活保護の担当CWの勧めもあり、精神科病院に受診。診断名は知的障害。眠剤と安定剤を1日1回処方されて飲み始めた。受診してからは、夜少し眠れるようになったと話す。</p>
経済状況	障害基礎年金申請中 補足給付：家賃10,000円(申請中) 生活保護受給。
相談に至る経緯	父親から久の生活の面倒が見られないので、施設に入所させたいと市役所に相談。
望んでいる暮らし	久さんの希望は、「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」「自分のことは自分でできるようになりたい」「困りごと相談したい」「将来は一人で暮らしたい」と思っているが、「今は朝もなかなか起きられない」し「掃除や洗濯、調理もできない」ことに

【事例情報】

01 事例の概要

	困っている。そのため、「3年後ぐらいにはまた働きたい」「今は働くことの自信はないので力をつけたい」「1人でコツコツと集中できる作業が好き」「働くときには優しい上司がいるところが良い」と話している。友達がうまくつくれないことを気にしていて「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫の話ができる友達ができたら最高」と言っている。 自分で自立した生活というイメージがまだ持てていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、生活保護の担当者は考えている。 久さんは、「3年後には普通に仕事をして立派な男になりたい」と言っている。
本人の状況と最近の様子	久さんは、こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。久さんからの質問はほとんどない。久さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活に困窮しているので、服装には少し汚れが目立っていた。相手の話を「はい、はい」と返事をするので、分かっているように見えるが、なかなか理解はできない様子。
その他	父親の右半身に麻痺が残り、これ以上の回復は望めない状態。 弟は、普通高校に通い、健康状態の問題は特に無い。

アセスメント表

記録：相談支援センターひまわり 相談支援専門員：六本木はやと

相談日時	平成30年6月5日 13時～15時
氏名等	水道橋 久氏、22歳 男性 知的障害（軽度） 障害支援区分 3 （月1回精神科受診）
望んでいる暮らし	全体 「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」 「困りごとは相談したい」 「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」 生活面 「自分のことは自分でできるようになりたい」 「将来は一人で暮らしたい」が「今は朝もなかなか起きられない」し「掃除や洗濯、調理もできない」 「一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫の話ができる友達ができたら最高」 就労面 「3年後ぐらいにはまた働きたい」 「今は働くことの自信はないので力をつけたい」 「1人でコツコツと集中できる作業が好き」 「働くときには優しい上司がいるところが良い」
心身の状況	身長175cm 体重80キロ 特に問題ない。久さんは最近肥満体形になってきているのを気にしている。
精神面の状況	突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする感じが見られる。

	見た目は大人しそう。高校時代の担任の先生は「普段は、穏やかに過ごしていた」「集中している時は、周りの声も耳に入らない」と言われていた。父親を尊敬していて世話になったと思っている。
生活の自立度	朝起きるのが苦手な生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。家事は手先が器用なので練習すればできるようになるのではないかと確認する必要がある。
気持ちの自立度	家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、始めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなときには早めに職員に伝えられるとよい。
服薬状況	夜、寝る前の処方のみ。自分で薬の管理ができるように練習している。
経済状況	【収入面】 生活保護 【支出面】 グループホームの費用 家賃30,000円（家賃補助10,000円） 食費20,000円 高熱水費15,000円 日用品費3,000円 生活費（おこづかい）20,000円 金銭管理は、仕訳を手伝えその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。
趣味	昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など
キーパーソン	父親。交通事故で右半身に麻痺があり自分のことで精一杯な様子。
家族	父方母方の祖父母について 父方の祖母は県外（遠方）にいるが、母方の祖父母は他界している。 両親と暮らしていたころは、年1回は家族で父方祖父母に会いに行っていた。
就労	手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。「1人でコツコツと集中できる作業が好き。」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」といざれしっかりと働きたいという意欲はある。移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習しだいでは利用できそうである。

【事例情報】

02 アセスメントシート

02 アセスメントシート						
氏名		水道橋 久		記入 相談支援専門員 六本木はやと		
項目	紹介があるか	程度	項目	紹介があるか	程度	
日常生活面	起居動作	起き上がり	<input type="checkbox"/> 有	衛生保持	手洗い	<input type="checkbox"/> 有
		着脱	<input type="checkbox"/> 有		爪切り	<input type="checkbox"/> 有
		姿勢保持	座位		<input type="checkbox"/> 有	耳掃除
	移動	室内	<input type="checkbox"/> 有		月経	<input type="checkbox"/> 有
		屋外(歩)	<input type="checkbox"/> 有		排便	<input type="checkbox"/> 有
		衣類着脱	着脱行為		<input type="checkbox"/> 有	洗髪
	靴の選択		<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有	
	髪行行為		髪質	<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有
			髪色	<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有
		髪型	<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有	
髪質		<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有		
髪色		<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有		
髪型		<input type="checkbox"/> 有	洗髪	<input type="checkbox"/> 有		
特記事項	<p>父親がある程度身の回りのこと(調理、洗濯、掃除など)はやってくれていた。久さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物が溜まってしまふ。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験がないが、援助があればできるようなことと予測できる(今までの生活の様子から、父親が予測)。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が無くなること心配される。</p>					
コミュニケーション	<p>困ったときに相談しているところ 生活上の支援機関、支援者など</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援センター「ひまわり」 就労センター「スマイル」 グループホーム「ピアハウス」 西村病院(内科・精神科) <p>意思の表明方法</p> <p>言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事ができている。手厚い分、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかった。厚の人は分かっていると聞いて仕事をすすめてしまうので、本人は分からず少しパニックになってしまうことがあった。</p>					
社会参加・移動	<p>好きなこと 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど</p> <p>嫌いなこと 怖そうな人・すぐに怒りそうな人</p> <p>移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう</p> <p>グループホームで生活をする予定</p>					
家庭生活	<p>家庭での主な介護者 父親 介護者の状況 もともとは大工。交通事故で右半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。</p>					
経済状況	<p>主な生活財源 生活保護受給中。</p> <p>就労による収入 0円/月 預貯金 0円</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>障害年金申請中 <input type="checkbox"/>障害者特別手当 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物(菓子・ケーキなど)買いたい気持ちが高まること、浪費してしまうことがある。</p>					

項目	紹介があるか	程度	特記事項	
				項目
行動面	行動面での障害1	こたわり行動	<input checked="" type="checkbox"/> 有	自分の手帳があり、変更されるとパニックになる
		徘徊	<input type="checkbox"/> 有	
		情緒不安	<input type="checkbox"/> 有	
		興奮過剰	<input type="checkbox"/> 有	
		衝動・紅潮・紅腫	<input type="checkbox"/> 有	
		被害妄想	<input checked="" type="checkbox"/> 有	右側の人からから/にされていると誤っている
		自殺願望・企図	<input type="checkbox"/> 有	
		不潔行為	<input checked="" type="checkbox"/> 有	高熱があれほどだしなみを整えるが、使ったタオルを洗濯機で洗う
		異常行為	<input type="checkbox"/> 有	
		攻撃性	<input type="checkbox"/> 有	
行動面での障害2	行動面での障害2	目標行動	<input type="checkbox"/> 有	やっとなことなので支援が必要
		仕事に対する	<input type="checkbox"/> 有	やっとなことなので支援が必要
		業務に対する	<input type="checkbox"/> 有	やっとなことなので支援が必要
		音声や騒がしき	<input type="checkbox"/> 有	
		パニック	<input checked="" type="checkbox"/> 有	物事の進め方が分からずと起きる。
		多動・行動の停止	<input type="checkbox"/> 有	
		覚醒障害	<input type="checkbox"/> 有	
		感情不安定	<input checked="" type="checkbox"/> 有	困ってしまうと感情も不安定になる。
		過大・過小評価	<input type="checkbox"/> 有	
		《その他》	<p>主治医からは、薬は軽いものである、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性があると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。</p>	
<pre> graph TD 祖[祖] --- 母[母親] 祖 --- 父[父親] 母 --- 弟[弟] 父 --- 弟 父 --- 子[本] </pre>				

【事例情報】

03 学齢期の情報

03 学齢期の情報

*以下の情報については、担当の相談支援専門員が久さんの過去のことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

小学6年生の時に受けた児童相談所における判定状況	I Q 6 8 といった記録はあるが、詳しいデータは不明。
教育関係者からの情報	中学の太鼓部の顧問だった先生より、「中学一年の頃は、よくしゃべる子だった。張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。」という話があった。
中学に入学後に母親と相談に行ったことがある専門機関からの情報（その後、年に一回のペースで数回その機関に通っている。離婚後もしばらく母親が連れて行っていた。）	<p>「母親がとても心配そうに久さんを連れてきて、『久はやさしい子です。でも乱暴なところがあるからと、学校から追い出されてしまったんです。何ができていないかを知りたいのです。』と訴えてきたので、印象に残っていますとのこと。（以下のことは、5年前の高等部二年生の時の状態について、聴取したことをまとめたもの。）</p> <p>日付、時刻～よく理解できている。</p> <p>数、数量～計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物の中には、大きな金額の札で支払いおつりをもらっていた。</p> <p>書字～筆圧が弱く、読み取れない字も多く、線が一本抜けていたり、多かったりする。筆順は自分なりの書き方。</p> <p>読み～一、二行の文章はわりとすんなりと読むことができていた。難しい漢字でも知っているところがあった。読み違い（勝手読み）は目立っていた。</p> <p>聞き取り～一対一での指示は入っていくが、集団における指示はほとんど入らない。特に周囲で誰かが話しているとその話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。</p> <p>話すこと～慣れた相手だと、早口になる。筋道の通った話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。</p> <p>比較・推測すること～予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰かに言われたことをまねているだけのことも多い。</p>

特別支援学校高等部の元担任からの情報	<p>指導上の留意点について～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 同じような内容のことについても、理解できているときとそうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。 ② 自分でできないときになかなかヘルプコールが出せない。 ③ 教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。 ④ 人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。 ⑤ なかなか伝えたことが身につかないときに、繰り返していねいに声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。 <p>支援目標を達成していく上で効果が認められたこと～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6工程の内容でも対応できることは多かった。 ② やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。
--------------------	---

キーワード

- ・プロセスの理解
- ・（個別）支援会議
- ・モニタリング
- ・傾聴
- ・サービス等利用計画等との連動
- ・多職種連携
- ・情報の整理

事前課題

①事例情報の読み込み

01 事例の概要

02 アセスメントシート

03 学齢期の情報

②分からないワードについて理解する

③共同生活援助、就労継続支援B型の事業内容等について理解する